| 教科名 | 国　　語 | 科　目　名 | 現　代　文 |
|---|---|---|---|
| 履修学年 | 第 2 学 年 | 時　間　数 | 2単位 |
| 使用教科書 | 現代文〔新訂版〕　（筑摩書房） | | |
| 副教材等 | クリアカラー国語便覧第三版（数研出版）　＊1年次より継続使用<br>アクト現代文標準編（桐原書店）<br>大学入試漢字　ＴＯＰ２０００（いいずな書店） | | |
| 1、学習目標 | ①近代以降のさまざまな文章を読む力を高める。<br>②様々な文章を読むことで、ものの見方、感じ方、考え方を深める。<br>③進んで表現し読書することによって人生を豊にする態度を育てる。 | | |
| 2、学習方法 | ・本文を通読し、わからない語句の意味や読みを調べ、漢字学習などの予習を欠かさない。また本文は必ず音読し、模範文とする意識を持つ。<br>・授業中はメモ・ノートをとり、不明な点があった場合には、必ずその日のうちに解決する（各種辞典や参考書で調べる。友人や先生に質問する、など)。<br>・ノートは板書に頼ることなく、口頭の説明も注意して聞き、便覧などの参照も忘れず、イメージ図など必要なことも加えながら工夫してまとめる。<br>・随想や評論では、主題・論理の展開・構成に努め、段落ごと、また本文全体の要約を自分で取り組む。<br>・小説では、筋の把握にとどまらず、作中人物の心理およびその変化を的確に把握して、思い浮かべる。<br>・文学的知識は、便覧を利用して対象となった教材はもとより、関連する事項にも気を配り、積み重ねていくよう努力する。<br>・『アクト現代文標準編』および『大学入試漢字 TOP2000』が週末等の課題になる。授業で指示があるので、提出の場合は期限に遅れずに提出する。また小テストなどの指示がある場合は、指示に合わせて学習する。 | | |
| 3、評価方法 | 定期考査・課題の取り組みを基準として評価・評定するが、授業への関心・意欲・参加態度や、小テストなども鑑みて、総合的に判断して行う。<br>《評価の対象》<br>①定期考査（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末）<br>②実力テスト（春休み明け、夏季休業明け、冬季休業明け）<br>③授業への参加状況（授業への集中力、忘れ物なども含む）<br>④提出課題（取り組み状況、提出期限を守ることも含む）<br>⑤授業中の小テスト（漢字の確認テスト、単元テストなど） | | |
| 4、備考 | | | |

| 授　業　計　画 | | |
|---|---|---|
| 月 | 単元・教材 | 学 習 の ね ら い（目 標） |
| 4 | **随想**　「山里の作法」 | ①思想の表現方法として、筆者は文章のほかにどのようなものをあげているかを確認し、「かたちにならない」思想もあるという筆者の考えを理解する。<br>②村人たちは、どのような方法で自分たちの思想を表現しているかを理解する。<br>③「食事の作法」は、どのような思想によって伝承されてきたかを理解する。<br>④近代から現代の思想はどのようなものに変貌したか、また、そこにどのような問題が生じたかを理解する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | **小説一**「鞄」 | ①「青年」が語ることばから、彼にとってこの「鞄」がどのような意味を持つ物だったのかを考える。<br>②「青年」が残していった「鞄」を持った「私」は、どのような状態になったか、またどのような心境になったかを読み取る。<br>③小説の終末部に出てくる「自由」とは、どのような「自由」なのかを考える。<br>④この小説の中で、「鞄」はどのようなことを意味しているのか考える。<br>⑤安部公房とその作品について理解する。 |
| 6 | **評論一**「知識の扉」 | ①デジタル化による文字文化の形態の変化を確認し、「形態がどうあれ問題は中身だ」「内容は器から独立している」という考えに対する筆者の考えを理解する。<br>②さまざまな文化圏における「文字」の習得方法を整理し、〈読み書きすること＝「創造」〉が、身体性と密接に関わっていることを理解する。<br>③筆者の主張を踏まえて、携帯電話や新しい伝達媒体（メディア）が持つメリット・デメリットについて考える。 |
| 《前期中間考査》 | | |
| 6<br>7 | **小説二**「山月記」 | ①李徴の性格と、彼が虎に変身するまでのプロセスを把握する。<br>②李徴の告白から、彼の苦悩がどのようなものかを読み取る。<br>③自分が虎になった理由について、李徴の考え方の変化を跡づけながら、彼が真実の自己に気づいていく過程を読み取る。<br>④袁傪が李徴の詩を聞いて、「どこか欠けるところがあるのではないか」と感じたのは、李徴のどのような点かを考える。<br>⑤中島敦とその作品について理解する。 |
| 8 | **評論一**「記号論と生のリアリティ」 | ①筆者の考える〈記号〉とはどのようなものかを理解する。<br>②「われわれ人間が意味という病にとりつかれた存在である」とはどのようなことか理解する。<br>③ソシュールが明らかにしたことと、その認識論を理解する。<br>④「か」という文字や鏡に映った自分の顔を凝視した時に感じる気味の悪さから、〈記号〉とはどのようなものかを理解する。<br>⑤「記号論」は、われわれのものの見方や考え方をどのように変えたかを理解する。 |
| 9 | **詩・短歌**<br>１「竹」<br>２「小景異情」<br>３「永訣の朝」 | ①詩の中のそれぞれのことばが持つイメージやことばの繰り返しが作り出す韻律の効果を理解する。（１）<br>②前半と後半のイメージの違いに注意し、そこに象徴された作者の心情を読み取る。（１）<br>③七五調やことばの繰り返しが作り出す韻律の効果を理解する。（２）<br>④作者の「ふるさと」への思いがどのように表現されているかを考える。（２）<br>⑤「あめゆじゆとてちてけんじや」ということばは、作者にとってどのような意味を持っているかを考える。（３）<br>⑥「Ora Orade Shitori egumo」ということばは、妹のどのような気持ちを表しているかを考える。（３）<br>⑦妹との死別を作者はどのように受け止め、どのように表現しているかを考える。（３）<br>⑧方言や欧文表記はどのような効果をあげているかを考える。（３） |
| 《前期期末考査》 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | **評論二**「好奇心」 | ①「旅」が、私たちを日常生活の惰性から解き放ち、私たちの〈好奇心〉を突き動かすものであることを理解する。<br>②〈好奇心〉＝「関心」は、人間の知的活動の根源をなす知的情熱であることを理解する。<br>③〈好奇心〉に対応する、日本語の古語〈すき〉には、「いちずになる」という意味と、紙一重のものとして「歯どめがきかなくなる」という意味もあり、このきわどさが〈好奇心〉の本質であることを理解する。 |
| １０<br>１１<br>１２ | **小説三**「こころ」 | ①小説のストーリーを把握し、場面ごとの描写から人物の心情を読　み取る。<br>②「K」の告白を聞いた時の「私」の心情を読み取り、次第に「K」を「魔物」のように意識していく「私」の心の推移を読み取る。<br>③「精神的に向上心のないものはばかだ」ということばを「K」に投げつけた「私」の意図を読み取る。<br>④「K」の「覚悟」ということばを「私」はどのように解釈し、どのような行動に出たかを読み取る。<br>⑤「K」の自殺に直面した「私」の心の動きと良心の呵責を読み取る。<br>⑥夏目漱石の文学・思想について理解を深める。 |
| 《後期中間考査》 | | |
| １２ | **評論二**「人間はどこまで動物か」 | ①人間を「ヒト」と動物の一種に分類する一方、「ヒト」と「人間」が区別して使われるようになった背景には、人々のどのような認識があるか理解する。<br>②「人間はどこまで動物か？」という問いかけそのものの中にある問題点を「スケール」ということばを手がかりにして理解する。<br>③動物同士の「違い」や動物と人間の「違い」は、「スケール」の違いではなく「ベクトル」の違いであるという筆者の考えを理解する。<br>④「人間はどこまで動物か」という問いかけの中にある「近代の発想の呪縛」とはどのようなものか理解する。 |
| 1<br>2 | **評論三**「人生の物語性について」 | ①カミュの『異邦人』の中の描写やいくつかの例によって筆者が述べている「人間の矛盾したあり方」について理解する。<br>②太宰治の『トカトントン』において「トカトントン」の幻聴が持つ意味と、それを否定的に受けとめている太宰の批評性を理解する。<br>③人間が持つ「物語性」と「必要性」という二重構造を理解し、両者の関係を理解する。 |
| | **小説一**「バブーシュカ」 | ①作品の表現に沿って、「彼」と「お母さん」との結びつきはどのようなものだったかを読み取る。<br>②母親を失い鬱状態に陥っている「彼」を前にして「私」はどのような心境になったかを読み取る。<br>③風邪を引いてしゃべれなくなったことで、「彼」との関わり方について「私」はどのようなことに気づいたかを読み取る。 |
| 《後期期末考査》 | | |
| 3 | **小説二**「濃紺」 | ①「繁枝」の下駄が「きよ」に贈られるまでの経緯を把握する。<br>②「繁枝」の下駄はどのような下駄であったか、また「きよ」がその下駄から感じたことを読み取る。<br>③「下駄は三十年のきよの心にこたえて、見勝りする姿である」とはどのようなことか考える。<br>④「きよ」が「嫁の春子」に下駄の由来を聞かせようと思った理由を考える。 |

| 教科名 | 国　　語 | 科　目　名 | 古　　典 |
|---|---|---|---|
| 履修学年 | 第 2 学 年 | 時　間　数 | 2　単　位 |
| 使用教科書 | 精選古典　改訂版　（大修館書店） | | |
| 副教材等 | クリアカラー国語便覧第三版　（数研出版）<br>標準古典文法　（第一学習社）<br>ベネッセ全訳コンパクト古語辞典　（ベネッセ）<br>以上、全て１年次より継続使用 | | |
| １．学習目標 | ①１年次に得た知識を基礎にして、古典としての古文と漢文を読む能力を養う。<br>②日本人・日本文化に対するものの見方、感じ方、考え方を広くする。<br>③古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育てる。<br>④日本文化の特質や、中国文化との関係・差異を考える態度を身につける。 | | |
| ２．学習方法 | 【古文】<br>・常に机上に古語辞典を用意し、わからない語句があった場合はただちに古語辞典をひくこと。また文法事項についてもわからないことがあれば、『標準古典文法』で確認する。<br>・本文はノートに書き写し、必ず音読をし、繰り返し文章を読み直す。<br>・授業で習った文法事項・基本的な古語は確実に暗記し、次に活かせるようにする。<br>・不完全であっても、自分の言葉で現代語訳を試みる。<br>・その訳だけで満足せずに、文章に現れた背景や作者の考え方についても理解を深める。<br>・文学史的知識は、『クリアカラー国語便覧』を利用して対象になった教材についてはもとより、関連する事柄にも気を配り、重要なことは暗記する。<br><br>【漢文】<br>・漢文訓読のきまりに従って、必ず音読し、現代文と異なる響きや言い回しを習得する。<br>・ノートには必ず原文・書き下し文、現代語訳を書く。<br>・重要語・句形を理解・暗記し、現代語訳の際の型をのみこむ。<br>・文章の内容及び作者のものの考え方など、どのように日本文化に影響を与えているか、考える。 | | |
| ３．評価方法 | 定期考査の成績を中心に、授業への関心・意欲・参加態度や小テスト、及び課題提出の状況を総合的に判断して評価する。<br><br>《評価の対象》<br>①定期考査（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末）<br>②実力テスト（春休み明け、夏季休業明け、冬季休業明け）<br>③授業への参加状況（授業への集中力、忘れ物なども含む）<br>④提出課題（取り組み状況、提出期限を守ることも含む）<br>⑤授業中の小テスト（単元テストなど） | | |
| ４．備考 | | | |

| 授　業　計　画 | | |
|---|---|---|
| 月 | 単元・教材 | 学 習 の ね ら い（目 標） |
| 4<br><br><br><br><br><br><br><br>5<br><br><br><br><br><br><br><br>6 | **古文編Ⅰ　一　説話**<br>「宇治拾遺物語」<br>検非違使忠明の事<br>「十訓抄」<br>大江山いくのの道<br><br>**漢文編Ⅰ　一　故事成語**<br>画竜点睛、漱石枕流、<br>糟糠之妻、塞翁馬<br><br>**古文編Ⅰ　二　随筆**<br>「徒然草」<br>家居のつきづきしく<br>応長のころ、伊勢の国より<br>「枕草子」<br>中納言参りたまひて<br>二月つごもりごろに<br><br>**漢文編Ⅰ　三　漢詩**<br>竹里館、秋浦歌、江南春、春夜、峨眉山月歌、月夜、咸陽城東楼 | ・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。<br>・古文の読みに慣れ、古典に親しむ。<br>・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。<br>・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。<br><br>・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し、現代における意味や用法を習得する。<br>・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって、中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。<br><br>・古典の文章に慣れ、随筆の簡潔で的確な表現を味わう。<br>・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。<br>・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。<br>・平安時代の宮中の様子、特に作者と周囲の人物との関わりについて正確に把握する。<br>・当時の中国文化の影響について認識を深める。<br>・作者、作品に関する文学史的知識を深める。<br><br>・唐代の詩を繰り返し音読し、漢文独特の口調に習熟する。<br>・作者や作中人物の、人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。<br>・唐詩の表現技法や修辞などの特色を理解し、その優れた表現に親しむ。 |
| 《前期中間考査》 | | |
| 6<br><br><br><br>7<br><br><br><br>8<br><br><br><br>9 | **古文編Ⅰ　三　物語①**<br>「伊勢物語」<br>初冠<br>月やあらぬ<br>関守<br>「大和物語」<br>をばすて<br><br>**漢文編Ⅰ　二　史話**<br>鴻門の会<br>項王の最期 | ・物語を読み、古典に対する親しみを深める。<br>・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。<br>・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。<br>・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。<br>・「姥捨伝説」について調べる。<br>・「歌物語」の特徴を捉える。<br><br>・長文の漢文に読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。<br>・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。<br>・『史記』の表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、その巧みな描写、簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。<br>・『史記』と司馬遷についての知識をまとめる。 |
| 《前期期末考査》 | | |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | **古文編Ⅰ　三　物語②**<br>「大鏡」<br>道真左遷、競べ弓、<br>花山院の出家 | ・「大鏡」の構成と内容、歴史物語としての特色を理解する。<br>・登場人物の関係、その行動や心情をとらえ、人物や事件について、作者がどのように思っているかを考える。<br>・当時の中国文化の影響について認識を深める。<br>・敬語の意味と用法について整理し理解する。<br>・「歴史物語」の特徴を捉える。 |
| １０ | **漢文編Ⅰ　四　文章**<br>桃花源記、　捕蛇者説 | ・文章の構成や展開を正しく理解する。<br>・作者や作中人物の、人間や社会に対する考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの感じ方、考え方を豊かにする。<br>・文章の表現技法や修辞などの特色を理解し、その優れた表現に親しむ。<br>・特に「捕蛇者説」では、作者の社会批判の精神を理解する。 |
| １１<br>１２ | **古文編Ⅰ　四　日記**<br>「土佐日記」<br>羽根、　白波<br>「更級日記」<br>あこがれ、　猫 | ・仮名文の日記が生まれた背景、作品と社会的な背景との関わりを考え、理解する。<br>・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。<br>・文章の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。<br>・作者、作品に関する文学史的知識を深める。 |
| 《後期中間考査》 | | |
| １２ | **漢文編Ⅰ　五　思想**<br>「論語」「孟子／荀子」<br>「老子／荘子」 | ・古代中国の思想家たちの、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。<br>・古代中国を代表する思想書を読むことによって、日本文化との関係について考える。 |
| 1<br>2 | **古文編Ⅰ　五　源氏物語**<br>桐壺、若紫 | ・物語のおもしろさを読み味わう。<br>・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。<br>・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。<br>・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。 |
| | **古文編Ⅰ　六　和歌・歌謡**<br>「万葉集」「古今和歌集」<br>「新古今和歌集」 | ・和歌や歌謡の特色を理解し、その主要な作品を味読する。<br>・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。<br>・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 |
| 《後期期末考査》 | | |
| 3 | **漢文編Ⅰ　六　小説** | ・文章の構成や展開を正しく理解する。<br>・物語性に富んだ長文の散文教材を読むことによって、その表現技法や修辞、文体などの特色を理解し、親しむ。<br>・再読文字や疑問・反語の用法を中心に、既習の句法について整理し、理解を確かめる。 |